

「端午の節句展」出品リスト

田原市博物館

2025(令和7)年4月12日(土)～6月1日(日)

企画展示室2

資料名	時代	所蔵
座敷(五月)幟	昭和6(1931)年	渥美郷土資料館
五月節句飾り	昭和43(1968)年	渥美郷土資料館
五月節句飾り	昭和60(1985)年	田原市博物館
兜飾り	昭和50年代	渥美郷土資料館
鎧兜飾り	平成5(1993)年	田原市博物館
鎧兜飾り	平成18(2006)年	個人蔵
五月人形「鳴弦」	昭和時代後期	田原市博物館
五月人形「矢の根」	昭和時代後期	田原市博物館
五月人形「竹鳳」	昭和50(1975)年	渥美郷土資料館
五月人形「金太郎」	昭和時代後期	田原市博物館
鯉のぼり(和紙製)	昭和時代初期	田原市民俗資料館
鯉のぼり(布製)	昭和2(1927)年	渥美郷土資料館
祝幟「神功皇后と武内宿禰」	昭和時代初期	田原市民俗資料館
祝幟「宇治川の戦い」	昭和時代初期	田原市民俗資料館
三州奥郡風俗図絵「五月四日 凧祝」	昭和11(1936)年	田原市博物館
三州奥郡産育風俗図絵「菖蒲の祝」	昭和12(1937)年	田原市博物館
東都歳時記 夏「端午市井図」	天保9(1838)年	田原市博物館
錦絵「さつき人形(小供風俗)」宮川春汀	明治30(1897)年	田原市博物館
錦絵「たこあげ(小供風俗)」宮川春汀	明治30(1897)年	田原市博物館
端午の節句写真(幟と鯉のぼり)	昭和時代中期	個人蔵
初凧揚げ写真	昭和20年代	個人蔵

「端午の節句」

5月5日は、みなさんご承知の「端午の節句」^{たんご}です。現在では、この日を端午の節句という人は少なくなり、国民の祝日としての「子どもの日」と呼ぶことが多くなりました。ちなみに、この日が祝日になったのは、今から70年前の昭和23(1948)年でした。

さて、日本では、季節の変わり目ごとに5つの節句が設けられ、その節目に五穀豊穰^{ごこくほうじょう}や無病息災^{むびょうそくさい}、子孫繁栄^{しそんはんえい}などを祈り、神様へお供え物をしたり、邪気を祓^{はら}ったりする行事をしていました。五節句とは、1月7日人日の節句^{じんじつ}(七草の節句)、3月3日上巳^{じょうし}の節句(桃の節句)、5月5日端午の節句^{しょうぶ}(菖蒲の節句)、7月7日七夕の節句(笹の節句)、9月9日重陽^{ちゅうよう}の節句(菊の節句)で、もとは唐の時代の中国から伝わってきたものでした。

そんな節句行事の一つである端午の節句の歴史は古く、古代中国では、この日を悪日として災厄や病魔^{はら}を祓うための行事が行われていました。こうした風習が奈良時代にわが国に伝わり、平安時代には、天皇を交えた「菖蒲酒の宴」が催され、群臣には「薬玉」、天皇には「粽^{ちまき}」が献じられるようになりました。そして群臣たちには、この日菖蒲がつけられた冠をかぶるという習わしがあったとされています。これは、菖蒲が薬草として香りが強く、その香りにより邪気を祓うものとされてきたからでした。私も子どもの頃にお風呂で菖蒲を頭に巻いた記憶がありますが、これはこの習わしに由来するものであったのです。その後、鎌倉時代になると武家社会の間でも菖蒲が「尚武」に通じることからこの行事は尊ばれるようになりました。江戸時代となり、武家社会が成熟すると5月5日を男子の節句とし、幟や鎧兜、武者人形などが男の子のいる家々で飾られる

ようになりました。さらに明治時代以降には、こうした習慣が一般の家庭でも盛んに行われるようになり、絵幟や鯉のぼり、祝風があげられ、粽や柏餅などの贈答が行われるようになりました。

また、東三河地方から静岡県、神奈川県にかけての地域では、端午の節句の頃に凧あげをして子どもの誕生を祝う「初凧」という行事があります。田原市内においてもこの頃になると初節句を迎える男の子の健やかな成長を願って大きな絵凧をあげて祝う風習があり、昭和の初め頃までは、旧泉村を中心とする石神、伊川津、江比間や野田、赤羽根、田原地区などで盛んに行われていました。

現在、田原市無形民俗文化財に指定されている「田原凧けんか凧合戦・初凧」は、このような風俗習慣によるものです。

2025(令和7)年の『田原凧まつり』は、5月24日(土)「初凧祈願祭・初凧揚げ」、25日(日)「けんか凧合戦」の日程で開催されます。

*広報たはら「歴史探訪クラブ その189」平成30年5月号を一部改編



「鯉のぼり」松下石人著『三州奥郡産育風俗図絵』(昭和12年原本発行) 国書刊行会復刻本より